



研修レポート 北大阪ブロック

## 災害時の乳幼児支援 災害時、期待された保育者の役割

講師 鈴木 甲子氏 (福島県南相馬市役所  
こども未来部こども育成課 課長)

日付 12月8日(金) 場所 大阪府社会福祉会館 403



東日本大震災を経験し、災害時に大切なこと、また保育者ができる支援について、貴重な体験を通してご講話いただきました。

〜発生時(4分間の揺れ)〜

平成23年3月11日14時46分18秒、マグニチュード9の東日本大震災が発生。震災時、保育園は午睡中

でした。急いで全員を布団から出し、園庭の真ん中へ一次避難しました(服・靴等はなし)。揺れの合間に、ブルーシートとあるだけの布団をかき集め、園庭で囲いを作り、子どもたちをその中に避難させました。

日頃から避難訓練を行っていましたが、想定外の状況も多く地震発生から一時間後には電話がつかなくなり、職員の中には不安でパニックに陥るものもありました。このような状況では、園長や主任が、その場を仕切って指示を出すことが重要でした。

〜帰還した子どもたち〜

6月1日、原発事故現場から30キロ圏外での保育が再開されました。巡回相談を行う中、無表情な子どもたちの顔が目立ちました。被災した保護者たちは先の不安に押しつぶされ、抱っこしている小さな子どもの顔を見る余裕もなかったのかも知れません。

保護者たちに「たいへんだったね」「大丈夫だよ」といった言葉をかけ、保護者の思いに寄り添い、子育て

に対する不安をできるだけ和らげるよう心がけました。

〜子どもたちの心を

取り戻すために保育者が

大切にしたこと

- ・笑顔 ・時間
- ・穏やかな会話
- ・思いを聞く、語らせる
- ・体を自由に動かせる場、自分でじっくり遊びこめる場
- ・無条件の受け入れ
- ・選択肢のある会話
- ・子どもの行動を見る、その行動の意味を探る
- ・良いか悪いかすぐ決めない

保育者が前向きな考えや発言をすることで保護者の気持ちの切り替えにつながられます。

子どもの安定には、最初に親の心を安心させることが鍵であり、単に教えるのではなく、親の話に耳を傾け、寄り添うことが親の安心につながります。

〜避難訓練の重要性〜

これまでの形だけの避難訓練ではなく、実際に役立つ訓練にするために職員間で具体的な課題を出しあい

考えて工夫をしました。例えば――

- ①靴を取りに戻らなくてもいい方法↓大きなビニール袋に入れて持ち出す。
- ②短時間でスムーズに靴がはける工夫↓牛乳パックで作った入れ物に入れて持ち出す。
- ③携帯電話の所持↓シヨルダーバッグに入れて持つておく など。

持ち物、身につける物、移動させる物など、職員が主体的に考えて動けるようになるために、日頃から訓練で必要なことや行動を考えるクセをつけることが重要です。

また、特別に支援が必要な子どもたちに対しては、避難場所や、みんなと一緒にいることができず、パニックを起こす場合もあり、その子の落ち着く物や場所など対応策を考えておく必要があります。

〜保護者の意識を変える〜

保護者にも災害時の対応を考えてもらう機会をもつことが重要です。引き渡し訓練では、1回目に迎えに来た保護者は

120人中14人でした。訓練直後に園の気持ちと感謝を伝える手紙を出し、1年後の訓練では、120人中100人の参加となり、さらにその1年後は不参加者が2人のみとなりました。保護者に感謝の気持ちや園の思いを伝えることで、参加率を上げました。

また、地域の人たちとの連携も大切であり、経験に基づいた声に従うことで、無事に避難できることもあります。

震災から13年が経ちましたが、親の他者への依存心が強く、「やってくれるのがありがたいまえ」という思いがあり、ままならないと怒り、ごねることで、相手が折れて自分の考えがおるといふ体験を通して間違った考えが身につけると感じます。

「これからの未来に子どもたちにどんな力が必要か?子どもたちには自ら考え動き、自分で選択できる力が必要であり、決断してルールを引いてあげることではなく、後ろから支えることが大事」ということを学んだ研修でした。

研修レポート 河内  
ブロック

## 幼児教育①

### 「幼児教育の意義とその在り方」

— 幼児教育の役割と機能を理解する —

講師 寺見 陽子氏  
(神戸松陰女子学院大学  
こころのケアセンター客員所員)

日付 令和6年1月19日

場所 大阪府社会福祉会館 403



冒頭に、「幼稚園、保育所・認定こども園は、保育者や家庭、地域を巻き込み、子どもが自立して他者とともに協働して生きていくことのできる能力を育成することが求められており、その中でどのように保育者がコーディネートするか、保護者を保育に巻き込むにはどうしたらよいか」が課題となっていた。どこまで無理なく質の高い保育と保護者支援ができるか。保育者自身が自分の意識を変換すること

が大切であり、そのような視点から知識を実践に移し、今の時代にあわせた幼児教育を考えないといけない」という話からはじまりました。

※子ども家庭庁の創設と子ども基本法

全ての子どもが平等に健やかに成長できる事を目的に、令和5年4月に子ども基本法が施行された。幼児教育はこうであるべきだ。というのは簡単だが、さまざまな生き方や働き

方、考え方がある中でみんな違う。誰もが平等に教育を受ける権利・保育を受ける権利・幸せになる権利があり、それを保証することが大前提である。

園が拠点となり地域の人たちや自治体と連携し問題をかかえている保護者や子どもをケアしていかなければならない。

※今後の幼児教育の在り方

「幼児教育の経済学」の著者ジェームズ・J・ヘックマンは、長年の追跡調査の結果、幼児教育をきちんと受けた子どもは、犯罪率・貧困率・無職率が少なく社会的効果が大きいと論じた。

その調査は、世界を揺るがせ日本もそれを受け、子ども子育て会議や新制度ができた。それまでは、幼児期は遊びを中心に育てて見守り、学校教育のような教育的なことをするべきではない。というのが通念であった。

国により文化の違いはあるが、子どもにとっても、

保護者にとっても、保育者にとっても幸せな保育とは何か、みんなが幸せになる当事者性を大事にすることに効果が上がったため、就学前教育の見直しをしようというのが現代の世界的な動きであると学びました。

研修レポート 南大阪  
ブロック

## 幼児教育②

### 幼児の発達理解と幼児教育の 充実に向けた評価・改善について

講師 寺見 陽子氏 (神戸松陰女子学院大学  
こころのケアセンター客員所員)

日付 令和6年1月19日

今の保育がよりよい保育を充実させるためには、何が必要かを考えていくというところから話がはじまりました。

保育というのは、子どもの発達を促すための環境を考えていくことが根幹にあり、また幼児教育というのは経験の積み重ねから成り立っている。

今日の子どもの活動のねらいに対して、どういう意味があったのか、どういう経験ができたのか、それがどういう風につながったのかを、考えていくことが大切になってくる。保育・遊び・活動は、できたかできていないかで判断するのではない。子どもたちの生活の中で保育の実践をしながら、変化するような学びを取り入れることにより、人間的な基盤を作っていく必要がある。ということが必要となってくる。

そのためには、計画(P)・実践(D)・振り返り(C)・改善(A)というPDCAを循環させながら、保育の質を向上させていくことが重要である。

やらないといけないという固定的・機械的では保育の質向上にならない。保育士自身が楽しんですることが、子どもたちの充実した活動につながっていくのである。

カリキュラムの年案・月案・日案からなる日々の保育を計画し実践したが、計画通りにいかなかった。だが計画していないことが経験できた。それによって、学んだことは何だったのか。それを次の保育にどう改善していくのかというこ

を振り返り、何が必要かを発見していく評価・反省を日頃より行っていくことが、保育を充実させていくことにつながっていくのである。

保育を充実させていくためには、ひとりでは考えられなく、その時期に経験してほしいことが環境の中で、保証されているかなどを考え、気づいたことを文字にしながらいちいち考えていくことが、保育を充実させることにつながる。日頃から園の仲間と語りあう場を作り、共に意見しあい情報交換を行うなど、職員間のチームワークをよりよいものとしていきたいものである。

最初に「怒り」について学んでいきました。  
 「怒り」を感じる前に私たちは何らかのネガティブな感情を感じ、それを解消するためにおこる2次感情、すなわち防衛本能が「怒り」



と知りませんでした。  
 私たち保育者はさまざまなシチュエーションで子どもたちを冷静に叱ったり、感情的に怒ったりすることがあります。  
 「叱る」も繰り返していくうちにそこからネガティブな感情が生まれてしまい、「怒り」につながってしまうおそれがあると思えました。こういうときにこそ、一旦落ち着いて自分の感情に向き合い見つめなおすことで子どもたちとの関係性を一方的ではなく、お互いに尊重しながら築いていくこ

研修レポート

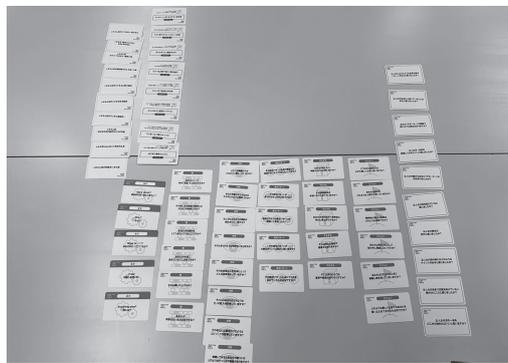
堺  
ブロック

## マナー研修①

怒る保育と教える保育「良い意味づけと振り返り」  
 指示と助言「自己選択、自己決定を助ける関わり」

講師 増田 知乃氏  
(有限会社レイズ)

日付 2月7日(水)

場所 TKP ガーデンシティ  
PREMIUM 心齋橋

## リフレクションカード

4種類のカテゴリ、全63枚のカードで構成されゲーム感覚で気軽にリフレクション(自分の行動や考え方を振り返り、見つめ直すこと)ができるカード

とができると学びました。  
 「教える」も一方的ではなく、子どもたちの反応や気持ちを見ていねいに拾いながら、子どもたち自身で気づくことができるような導きでありたいと思えました。  
 次に「指示と助言」「自己選択、自己決定を助ける関わり」をテーマにリフレクションカード①を用いたグループワークを行いました。

ここでグループのメンバー一人がカードを使ってテーマを決め、それについて話をしました。  
 他のメンバーはそれを聴いて、別のカードを使って質問を行い、話をした人に気づきを促していきました。  
 このグループワークを通して、問題を抱えた人が自らを責めたり、相手から責められた環境で振り返りを行うより、チームで援助するというあたったかい環境の



中で内省的に自分の内側と対話することで、気づきが生まれ、そこから次へすすむことができることを学びました。  
 「聞いたことは忘れ、見たことは覚えている。やったことはできるようになるが、自分で見つけたことは実行する」人の成長の大部分は直接経験による学びであり、



令和6年1月17日(水) 大阪芸術大学短期大学部で、保育所実習にこれから取り組む1年生50名を対象に、「はじめての保育所実習に取り組むために」をテーマに、天王こども園 八反田園長(写真) 山本副園長、てんのう中津保育園 木村副園長が、自園の保育方針や、一日の流れ、保育士として心掛けていること

## 保育士派遣事業



など説明しました。  
 今回、チャットを用いてリアルタイムで質問を受けつけ、学生たちの不安の声に楽しく面白く、そして真面目に答えられてました。限られた時間の中ではありましたが、全部の質問に答える事ができ、実習に取り組む後押しができました。  
 (事務局)

リフレクション(振り返り)をする力が人の成長を加速させます。  
 だからこそ相手の関心に関心を持った態度で職員同士が関わりあうことができたら、安心して自分の感情に向き合いながら、子どもたちにかかわり続けることができると感じたとともに深い学びとなりました。

泉州ブロック  
研修レポート **マナー研修②**

・保育者としてのあり方とやり方「保育者の幸せ」  
・保育者間の連携、保護者との連携

講師 増田 知乃氏 (有限会社レイズ)      日付 2月7日(水)

### 1. 保育者としてのあり方とやり方

受けもつ子どもたち一人ひとりがもつ可能性を信じ、成長を願い、後押しする気持ちで保育に関わっているという『Being(心のあるり方)』の先生は、子ども達が日々を安心安全に過ごし、成長するために必要な保育『Doing(やり方)』が変わってくる。

その結果、子どもが成長し自分自身も成長することで、日々の保育が充実できることにつながる。

どんなふうに子どもと関わっているか、どんな気も



ちで保育と関わっているか、自分の中の保育や子どもに対するBeingはどんな思いがあるかを改めて考え、大事な思いを自分に何度も思い返すことが大切である。

#### ―なぜ思い返すことが大切か―

人の意識は『顕在意識』

(5〜10%)と『潜在意識』(90〜95%)がある。『潜在意識』はネガティブワードがたまりやすく、明確に言語化できないことが多い。「なんとなく・だいたい」とあやふやなため、自分はどうんな価値観をもっているのか、明確に自己認知できていないことが多い。

人は知らないこと、わか

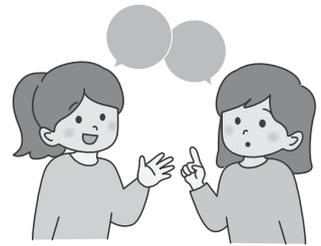
らないことを良いほうには考えない生き物である。潜在意識にネガティブなイメージがたまっているから、もう特徴をもっているからこそ、しっかりとBeingを認識しながら自分の潜在意識に良い物をいれることが大事である。

#### ―メタ認知―

メタ認知とは、一つ上から自らの認知(考える・感じる・記憶する・判断する)を認知すること。自分自身を客観的に見ることで自身自身をコントロールしやすくなる。

角度を変えて物事を捉える力をつけておくと俯瞰する力が高まる。

### 2. 保育者間の連携、保護者との連携



#### ―わかりあうために求められるスキル―

- ① 説明力…論理力+表現力
- ② 説得力…説明力+共感力
- ③ 共感力…傾聴スキル、信頼関係の構築、自他の区別
- ④ 傾聴力…相手の理解、理解を深める聞き方、話し手への影響
- ⑤ 観察力…その人の最善を理解、サポート方法の選択

#### ―コミュニケーションの完了―

投げっぱなし、受けっぱなしではなく、相手の投げたボールをしっかりと受け止め、相手の受け止めやすいボールを投げ返しキャッチボールが成立していること、やり取りが成立している状態が「完了」である。

ワクワク  
**EXPO**  
with  
第19回 食育推進全国大会  
イベント



1月6日(土)阪急うめだホールでワクワクEXPO with 第19回食育推進全国大会プレイベントが開催され保育士会も参加しました。

当日は、約1,700名が来場し、15の団体・企業の出展ブースを回りながら、食や健康について知識を深めていただきました。

保育士会ブースでは「乳幼児期からの食育」をテーマに、食品のグループ分け(赤・身体のもととなるもの

緑・身体の調子を整えるもの、黄・身体を動かす力となるもの)や、野菜の切り口クイズ、食育推進ビジョンの掲示、全国保育士会食育パンフレット・時短簡単レシピ集(1号・2号)の配布、保育所・こども園で行っている食育活動の紹介(スライドショー)などを行いました。

参加された方が、食品のグループ分けに驚いたり(他の人の選択で、学んだり)、なすびの切り口に迷ったりと、終始笑顔があふれていました。

ブースを5カ所回ると記念品がもらえる、シールラリーも実施され、小さな子どもからお年寄りまで、多くの方が立ち寄り、クイズを通して食育を身近に感じています。

また、6月1・2日には、ATCホールにて「ワクワクEXPO」の本イベントが開催されます。

次回もブース参加いたします。

ぜひ、会場に足を運んでいただき、イベントを盛りあげていきましょう。

(事務局)

## 子どもの発達と かかわりについて④

梅花女子大学  
心理学科 教授

伊丹 昌一

### Profile

特別支援教育や発達障がい児・者への支援、障がいのある子どもの家族への支援などを目的に心理アセスメントに長年携わられている。

前号では困っているサインの背景にあるさまざまな理由について考えていくうえで、背景要因としての「愛着症(愛着障害)」について説明しました。

今号では「愛着症(愛着障害)」を有する子どもへの効果的な支援方法について述べたいと思います。

愛着に課題のある子どもの支援は何よりも、これまでに形成されてこなかった愛着(アタッチメント)をメインとした関わりをすることが重要です。しかし、前号で述べたように、試し行動や不快感情の発散のための不適切行動に心を奪われ感情的に対応してしまいがちなのですが、子どもの背景要因を考慮して冷静に対応することが求められます。

乳幼児期の課題を再度構築するといった他の子どもとは違った対応が必要ですが、いわば育て直しといったマイナスからのスタートとなることを覚悟しなければなりません。何よりも乳幼児期の課題である基本的信頼関係の構築を最優先課題として支援することが重要です。

特にひどい関わり方をされてきた子どもの中には、解離性症といって、脳の器質的な問題がないのに、心身の統一が崩れて記憶や体験がバラバラになる現象が起きることもあります。例えば、何日も同じ服を着ている、落ち着かなく気分がムラが激しい、誰彼かまわず抱きつくが注意すると暴れる、暴れた後に

ボーっとしている、感情のこもっていない人形のように、弱い者いじめを繰り返すといったことが起こります。これらは、トラウマによって起きることが原因であるといわれています(長澤、2020)。

このような状況なので、初めは人との愛着関係を修復することを最優先課題とし、問題行動には直接反応せず、愛着関係に焦点化するようにしなければなりません。園において誰がキーパーソンとなつてこの状況に向き合うことができるかを考えなければなりません。きついことばや自己否定を受容・共感して辛い気持ちを受け止める勇氣をもってください。ただ、何でも許すばかりが支援ではなく、他児への暴力や暴言等は許さずに叱ることも忘れてはなりません。叱り方としては、人格や性格を否定するのではなく、問題となる行動を叱るようにしてください。例えば、近くにいる他児をたたいたときに、「あなたは何ぞそんな乱暴なことをするの?」ではなく、「先

生は友だちをたたくことは認めません」「たたく代わりに使っている積み木を貸してといたないさい!」といったように、禁止ではなくどうすればよいのかを伝えることが大切です。

自己評価が下がっていることが多いので、このようにな叱り方でも反抗したり、パニックを起こしたりすることがあるので、CCQPを使った冷静な叱り方を用いるといいと思います。

一つ目のCはCalm(おだやかに)、二つ目のCはCalm(近くで)、QはQuietly(静かに)、PはPositive(肯定的に)の略で、ベアレントトレーニング等で使われる手法です。指示すべき内容は必ず子どもが獲得している行動を伝えてください。そして、指示することばは変えずに繰り返すことも重要です。

子どもが獲得できている行動ですから、必ずできると信じて少し待ち、同じことばを繰り返します。この手法をブロークンレコードテクニクといいます。指示しても子どもが行動に移さないときにはだんだん特徴が強くなったり、別の指示に変わったりとブレることが多いのですが、一貫したことばを伝え続けてください。そしてできたときはその行動をほめてください。

ここでも子どもの人格や性格をほめてはいけません。ほめことばを受け付けることができなくなってしまう子どもの場合、ハンドサイン等の非言語メッセージでほめていただいても構いません。

あくまでも冷静さを保ちつつも毅然と修正するといった一貫した強い気持ちをもちながら対応することが大切です。

このようなかかわりを通して、安心して生活できる場の確保としての園生活を送ることを目標としてください。愛着を作りつつも主導権は譲らない対応としてください。

キーパーソンとの間に基本的信頼関係を構築し、主導権が取れた段階で求められるのは子どもの自己理解力の構築です。可能なら基本的な生活習慣を育てる中で、自分は何が得意で不得意なことには誰に聞けばいいのか、何を使えばいいのかを学ばせるようにしてください。この段階から生きる力を育てるといふ観点も必要とされます。愛着に課題のある子どもは基本的な生活習慣も育っていない場合があるので、子どもの基本的な生活習慣がどのレベルに育っているのかのアセスメントが必要です。基本的な生活習慣や対人スキル、余暇スキル等を含めた適応行動を測定して子どもの実態に合わせた支援をすることが重要です。その尺度としては、Vineyard II(日本文化科学社)を使っていたことを推奨します。

基本的な生活習慣を学ぶ中でその成功体験から自分の長所と短所を見出し、自己理解につなげるアプローチが有効だと思います。さらには社会的スキルや余暇スキル、コミュニケーション能力といった生きる力を育てていくようにしましょう。

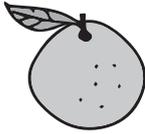
この子たちの今ではなく、大人になったときの幸せを目標に次のステージへとつなぐようにしたいものです。

# 保育の王手箱

担当 南大阪ブロック

今年の6月には大阪で第19回食育推進全国大会が開催されます。  
野菜の栽培・クッキング・自然観察など、あらためて食育に取り組んでいきたいですね。

## 〈みかんは何色?〉



ある秋、園庭のみかんの木に小さな青い実がなっていたので、4歳のA君に声をかけました。「見て!小さいみかんがなってるよ!」「先生、あれはな、みかんちゃう」「え!?みかんじゃないの?」「ぼく知ってんねん。みかんはな、こんな色(緑色)ちゃう。食べたことあるから知ってるねん」

なるほど、給食に出てくるみかんもスーパーで売られているみかんもオレンジ色です。A君は『僕はだまされないよ』と言った顔つきでしたが、果たしてその冬、緑の物体はオレンジ色に変身し、A君の中でも自然と「みかん」になりました。

保育環境を整える大切さを実感したエピソードです。

## 〈便利なトマト〉



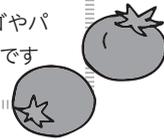
プランター野菜といえばやっぱりトマト。収穫してそのまま食べるのはもちろん、順番にたくさん実るので、収穫するたびに冷凍しておけば、スムージーに。

煮てトマトソースを作れば、ピザソースにして、収穫した夏野菜を使ってピザをクッキングすることもできます。

### 【材料 (2人分)】

トマト 1個(150g)  
バナナ 1本  
ヨーグルト 100ml  
ハチミツ 大さじ1

\*バナナの代わりにリンゴやパイナップルでも美味しいです



## 〈キャベツと青虫〉



大型プランターを使えばキャベツも栽培できます。できたキャベツをわざとそのまみにしておくと、青虫がたくさん生まれて、自然観察ができます。

キャベツといえばお好み焼き。給

食室で下準備をしてもらえば、子どもたちはキャベツと生地を混ぜてホットプレートに乗せるだけ。ソースを塗る作業もあるので「自分たちで作った!」という満足感がありますよ。

## 編集後記

「おめでとう」とお別れる季節となりました。家族の安心基地から初めて飛び出す子どもたちを、ようこそと受け入れ、日々成長をともにできたことに感謝と誇りを感じます。

少し前、SNS上で句点をつける文章に怖さを感じる、と話題にありましたね。

そこで俵万智さんが一句【優しさにひとつ気がつく×でなく○で必ず終わる日本語】以前当会機関誌の学びシリーズでご講義いただいた北畑先生の言葉「子どものことを話すときは、最後は必ず○の事柄を話すんだよ」を思いだしました。

次元は違うでしょうが、自身の保育を振り返るとき、子どもの頑張りやご自身の頑張り大きな○を最後に付けてみませんか。心が優しくなり勇気がわいてくるように感じます。私から特大の二重丸を送らせていただきます。ありがとうございます。